



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月14日

上場取引所 東

上場会社名 MRKホールディングス株式会社
 コード番号 9980 URL <https://www.mrkholdings.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 眞二
 問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 経営管理本部長兼経営企画部長 (氏名) 中 研悟 TEL 06-7655-5000
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	9,226	△5.7	△126	—	△26	—	△55	—
2023年3月期第2四半期	9,786	6.6	340	50.6	420	26.4	310	98.6

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 △19百万円 (—%) 2023年3月期第2四半期 254百万円 (30.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	△0.54	—
2023年3月期第2四半期	3.07	—

(注) 2023年3月期第2四半期の数値は、前第3四半期からの表示方法の変更の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	17,858	14,131	79.1
2023年3月期	18,049	14,252	79.0

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 14,131百万円 2023年3月期 14,252百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,200	3.4	880	9.5	880	2.9	530	3.1	5.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	101,295,071株	2023年3月期	101,295,071株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	537株	2023年3月期	477株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	101,294,564株	2023年3月期2Q	101,294,684株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(表示方法の変更)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

前第3四半期連結会計期間より、これまで「営業外収益」の「受取手数料」に含めて計上しておりました自社割賦に係る金利収益を「売上高」に含めて計上する表示方法の変更を行っております。当該変更に伴い、以下の経営成績に関する説明における前年同期比及び前年同期の諸数値につきましては、表示方法の変更の内容を反映させております。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、女性の皆様が輝く人生を過ごしていただけるよう美と健康に関する多彩なサービスを提供する『美の総合総社』の実現に向け、補整下着の販売を中心に、美容コスメや健康関連商品並びに、マタニティ及びベビー関連商品、婚礼・宴会関連事業、美容関連事業など、新たな商品・サービスの拡充を推進しております。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことに伴い、人流の回復により経済活動の正常化が進んだことなどから、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

一方で、緊迫する世界情勢を背景に、資源価格の高騰や物価の上昇など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループにおいては、婦人下着及びその関連事業における既存のお客様の購入動向が、昨年秋からの商品値上げ前のまとめ買いによる反動により購入に慎重になっていることに加え、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、観光やレジャーなどへの消費が活発化するなど個人消費の多様化に伴い、既存顧客のリピーター購入が減少し、売上が一時的に減少いたしました。

一方、さらなる成長に向けた販売体制強化のため、店舗従業員の人員体制の充実とウェブプロモーションを積極的に進めた結果、新規顧客の来店予約数が前年同期比で178.0%と躍進するなど、新規顧客の獲得が好調に推移いたしました。

さらに、8月の新商品投入、9月の分割手数料優遇など購入支援策を実施したことにより、婦人下着及びその関連事業においては、順調に売上を伸ばし、黒字転換いたしました。

また、婚礼・宴会関連事業においては、法人宴会やイベント運営において営業を強化したことから、売上が順調に推移するなど、着実に収益改善が進んだ結果、当第2四半期は黒字転換いたしました。第1四半期の損失をカバーするまでには至りませんでした。

なお、前年同期に比べて、減収減益となった主な要因は、婦人下着及びその関連事業において、昨年9月に商品価格値上げ前の駆け込み需要により売上が大幅に増加したことによる影響であります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高92億26百万円（前年同期比5.7%減）、営業損失1億26百万円（前年同期は3億40百万円の営業利益）、経常損失26百万円（前年同期は4億20百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失55百万円（前年同期は3億10百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）と前年同期比で減収減益となりました。

当社グループにおけるセグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

[婦人下着及びその関連事業]

婦人下着及びその関連事業においては、補整下着の販売及びコスメや健康食品などの美や健康に関連する商品の販売が主要事業であります。

当第2四半期連結累計期間において、ウェブプロモーションを積極的に推進するなど、多彩なメディアプロモーションを強化した結果、新規顧客の獲得が好調に推移いたしました。さらに、店舗従業員数が着実に増加し、顧客対応力の強化を図るなど、将来に向けた顧客基盤と販売体制の強化に取り組みました。

商品及び店舗展開においては、補整下着の最高峰シリーズの新作「Decorte Lumiés Idelat（デコルテ リュミエス イデラ）」を2023年8月に発売し、好評を博すなど、補整下着の販売が底堅く推移した他、「MARUKO ASSE（マルコアッセ）」（オーダーメイドインソール及び専用シューズ）において、女性のお客様に加え、男性のお客様が增加するなど、新規顧客開拓による同ブランドの愛用者が順調に増加いたしました。さらに、2023年9月には同ブランド初の専門店となる「MARUKO ASSE新潟古町」をオープンいたしました。

また、MARUKO池袋東口店（東京・豊島区/2023年4月）の新規出店に加え、5店舗の移転・改装を実施し、お客様にご満足いただける店舗づくりを継続して推進いたしました。

なお、前年同期に対して減収減益となった要因は、前年9月において原材料価格の高騰による値上げ前の駆け込み需要により売上が大幅に増加したことによる影響であります。

また、将来に向けた顧客基盤拡充に向けて、ウェブプロモーションの強化やお客様参加イベント「マルコ シンデレラ ストーリー アワード2023」（2023年5月）の開催、店舗従業員数の拡充など、先行投資を実施したことによるものであります。

以上の結果、売上高は81億67百万円（前年同期比7.0%減）、セグメント利益は22百万円（前年同期比95.3%減）となりました。

[マタニティ及びベビー関連事業]

マタニティ及びベビー関連事業においては、マタニティ及びベビー向けのアパレルや雑貨販売が主要事業であります。

当第2四半期連結累計期間においては、国内出生数の低下が続く中、引き続き厳しい経営環境に対して、商品の差別化を図るべく新商品開発に注力いたしました。さらに、新たな収益基盤の構築に向け、写真スタジオサービスや中国でのEC展開などの事業育成に取り組みました。

以上の結果、売上高は5億22百万円（前年同期比2.5%減）、セグメント損失は66百万円（前年同期は59百万円のセグメント損失）となりました。

[婚礼・宴会関連事業]

婚礼・宴会関連事業においては、結婚式場の運営やカフェ・レストランなどの飲食事業の運営が主要事業であります。

当第2四半期連結累計期間においては、法人向け宴会やイベント運営において、法人営業を強化した結果、宴会事業において、売上が順調に推移いたしました。

さらに、婚礼事業において、問合せ件数及び来館件数において復調の兆しが見えはじめるなど、着実に収益改善に向けて推移いたしました。

以上の結果、売上高は2億29百万円（前年同期比31.2%増）、セグメント損失は78百万円（前年同期は92百万円のセグメント損失）となりました。

[その他]

その他においては、美容関連事業などが主要事業であります。

当第2四半期連結累計期間においては、美容関連事業において、安定的な顧客基盤に加え、海外からのお客様も増加し、物販売上が好調に推移した結果、前年同期比で増収となりました。

一方、スタイリストの採用を推進するなど、成長に向けた投資を先行した結果、一時的に減益となりました。

以上の結果、売上高は3億31百万円（前年同期比3.1%増）、セグメント損失は6百万円（前年同期は2百万円のセグメント利益）となりました。

※上記、各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は120億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億94百万円減少いたしました。これは主に、商品の増加、原材料及び貯蔵品の増加及び関係会社短期貸付金の減少の結果によるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は58億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億4百万円増加いたしました。これは主に、退職給付に係る資産の増加、建物及び構築物の増加及び破産更生債権等の減少、無形固定資産の減少の結果によるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は31億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ52百万円減少いたしました。これは主に、買掛金の増加、賞与引当金の減少及び未払法人税等の減少の結果によるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は5億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ16百万円減少いたしました。これは主に、資産除去債務の減少の結果によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は141億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億21百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び剰余金の配当による利益剰余金の減少の結果によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は25億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ、24百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、減少した資金は1億6百万円（前年同期は36百万円の増加）となりました。これは主に、仕入債務の増加2億71百万円、未払金の増加1億77百万円、売上債権の減少93百万円等による資金の増加、法人税等の支払額による減少2億26百万円、棚卸資産の増加2億10百万円及び賞与引当金の減少1億62百万円等による資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、増加した資金は3億28百万円（前年同期は20億17百万円の減少）となりました。これは主に、関係会社貸付金の回収による収入25億円等による資金の増加、関係会社貸付けによる支出20億円及び有形固定資産の取得による支出1億11百万円等による資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、減少した資金は1億97百万円（前年同期は2億3百万円の減少）となりました。これは主に、配当金の支払額1億円及び株主優待費用による支出88百万円等による資金の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想については、2023年5月15日の「2023年3月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,556,645	2,580,905
売掛金	5,005,114	4,957,542
商品	1,199,559	1,319,617
原材料及び貯蔵品	156,536	246,528
関係会社短期貸付金	3,000,000	2,500,000
その他	456,340	495,194
貸倒引当金	△62,165	△82,682
流動資産合計	12,312,030	12,017,105
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,091,731	2,129,340
その他(純額)	1,628,148	1,630,288
有形固定資産合計	3,719,879	3,759,629
無形固定資産		
	373,585	326,230
投資その他の資産		
その他	1,754,021	1,825,081
貸倒引当金	△110,093	△69,156
投資その他の資産合計	1,643,927	1,755,925
固定資産合計	5,737,393	5,841,785
資産合計	18,049,423	17,858,890
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,115,751	1,387,169
短期借入金	100,000	100,000
未払法人税等	276,560	114,523
賞与引当金	220,225	57,289
ポイント引当金	80,000	89,000
株主優待引当金	211,014	114,557
資産除去債務	12,454	26,923
その他	1,229,002	1,302,761
流動負債合計	3,245,008	3,192,224
固定負債		
資産除去債務	486,344	474,118
その他	65,703	61,450
固定負債合計	552,048	535,568
負債合計	3,797,056	3,727,793
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,491,360	6,491,360
資本剰余金	6,473,978	6,473,978
利益剰余金	1,108,108	951,750
自己株式	△82	△89
株主資本合計	14,073,364	13,916,999
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	179,002	214,098
その他の包括利益累計額合計	179,002	214,098
純資産合計	14,252,367	14,131,097
負債純資産合計	18,049,423	17,858,890

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	9,786,479	9,226,411
売上原価	2,377,069	2,204,731
売上総利益	7,409,409	7,021,679
販売費及び一般管理費	7,069,144	7,147,682
営業利益又は営業損失(△)	340,264	△126,002
営業外収益		
受取利息	47,758	58,068
受取手数料	22,268	20,761
その他	14,051	25,380
営業外収益合計	84,078	104,211
営業外費用		
支払利息	283	287
租税公課	3,050	3,566
その他	779	362
営業外費用合計	4,113	4,215
経常利益又は経常損失(△)	420,229	△26,007
特別利益		
受取補償金	25,373	—
新型コロナウイルス感染症による助成金収入	2,022	1,403
その他	545	54
特別利益合計	27,940	1,458
特別損失		
減損損失	1,028	236
災害による損失	20,765	—
固定資産除却損	2,882	575
その他	3,119	142
特別損失合計	27,796	954
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	420,374	△25,503
法人税、住民税及び事業税	121,936	65,438
法人税等調整額	△12,186	△35,878
法人税等合計	109,749	29,560
四半期純利益又は四半期純損失(△)	310,624	△55,064
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	310,624	△55,064

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	310,624	△55,064
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△55,698	35,095
その他の包括利益合計	△55,698	35,095
四半期包括利益	254,926	△19,968
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	254,926	△19,968
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	420,374	△25,503
減価償却費	200,291	174,826
減損損失	1,028	236
長期前払費用償却額	9,489	9,082
貸倒引当金の増減額(△は減少)	12,493	△20,420
賞与引当金の増減額(△は減少)	123,690	△162,936
ポイント引当金の増減額(△は減少)	11,000	9,000
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△94,469	△96,456
受取利息	△47,758	△58,068
支払利息	283	287
助成金収入	△2,022	△1,403
受取保険金	△545	—
災害による損失	20,765	—
受取補償金	△25,373	—
固定資産除却損	1,234	575
賃貸借契約解約損	156	142
売上債権の増減額(△は増加)	△997,867	93,321
棚卸資産の増減額(△は増加)	198,229	△210,049
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	3,937	△23,499
前払費用の増減額(△は増加)	△92	265
未収消費税等の増減額(△は増加)	△5,522	△68
仕入債務の増減額(△は減少)	282,240	271,418
未払金の増減額(△は減少)	△127,369	177,807
未払費用の増減額(△は減少)	△5,172	△30,795
前受金の増減額(△は減少)	579	△2,770
未払消費税等の増減額(△は減少)	1,328	△110,951
その他	44,272	68,034
小計	25,198	62,073
利息の受取額	46,510	56,559
利息の支払額	△283	△310
法人税等の支払額	△62,749	△226,249
補償金の受取額	25,373	—
保険金の受取額	545	—
助成金の受取額	2,022	1,403
営業活動によるキャッシュ・フロー	36,617	△106,523
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社貸付けによる支出	△5,000,000	△2,000,000
関係会社貸付金の回収による収入	2,000,000	2,500,000
貸付けによる支出	△3,000,000	—
貸付金の回収による収入	4,350,000	—
有形固定資産の取得による支出	△316,985	△111,162
資産除去債務の履行による支出	△28,993	△16,492
無形固定資産の取得による支出	△48,342	△11,983
差入保証金の差入による支出	△19,542	△39,234
差入保証金の回収による収入	51,748	13,774
その他	△4,933	△6,353
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,017,049	328,548

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△23,105	△8,844
自己株式の取得による支出	—	△6
配当金の支払額	△100,749	△100,872
株主優待費用による支出	△79,772	△88,040
財務活動によるキャッシュ・フロー	△203,627	△197,764
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,184,059	24,260
現金及び現金同等物の期首残高	5,289,538	2,556,645
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,105,479	2,580,905

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

これまで「営業外収益」の「受取手数料」に含めて計上しておりました自社割賦販売に係る受取手数料は、前第3四半期連結会計期間より「売上高」に含めて計上する方法に変更いたしました。

当社グループでは顧客の商品購入に際しての負担を軽減することを目的とした販売方法として自社割賦販売を導入しており、販売を通じて得られる受取手数料は商品販売に付随する業務から得られる収入として営業外収益として表示しておりました。しかし、前第3四半期連結会計期間より、自社割賦販売を戦略的に取り入れる経営方針に転換することとなりました。そのため当社グループの自社割賦販売から生じる受取手数料の獲得は主要な営業活動の成果の一つとして位置づけたことに伴い、営業活動の成果を適切に反映するために表示方法を変更するものであります。

この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「受取手数料」78,217千円の内、55,948千円は、「売上高」55,948千円に組み替えております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ 及びベビー 関連事業	婚礼・宴会 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	8,777,844	536,429	150,761	9,465,036	321,442	9,786,479
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	700	—	24,395	25,095	50	25,145
計	8,778,544	536,429	175,157	9,490,132	321,492	9,811,625
セグメント利益 又は損失(△)	487,481	△59,694	△92,596	335,190	2,867	338,057

(単位：千円)

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への 売上高	—	9,786,479
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	△25,145	—
計	△25,145	9,786,479
セグメント利益 又は損失(△)	2,206	340,264

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業活動であり、美容関連事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額2,206千円には、減価償却の調整額が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ 及びベビー 関連事業	婚礼・宴会 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	8,166,613	516,750	211,744	8,895,108	331,303	9,226,411
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	709	6,054	18,053	24,817	15	24,832
計	8,167,322	522,805	229,798	8,919,925	331,318	9,251,244
セグメント利益 又は損失(△)	22,962	△66,312	△78,618	△121,968	△6,195	△128,164

(単位：千円)

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への 売上高	—	9,226,411
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	△24,832	—
計	△24,832	9,226,411
セグメント利益 又は損失(△)	2,161	△126,002

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業活動であり、美容関連事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額2,161千円には、減価償却の調整額が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間より、これまで「営業外収益」の「受取手数料」に含めて計上しておりました自社割賦に係る金利収益は、「売上高」の「その他の収益」に含めて計上する方法に変更したため、事業セグメントとの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。